

第 13 章 駒林遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高 12 ～ 15 m 前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北 300 m、東西 800 m の範囲であったが、2002 年から 2004 年に行った駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大溝を検出した南北 160m、東西 80m の範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として 2004 年 3 月に追加した。第 3 地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺 140 ～ 160m の台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008 年 2 月に遺跡範囲の変更増補を行った。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ部分的に畑が残っている。

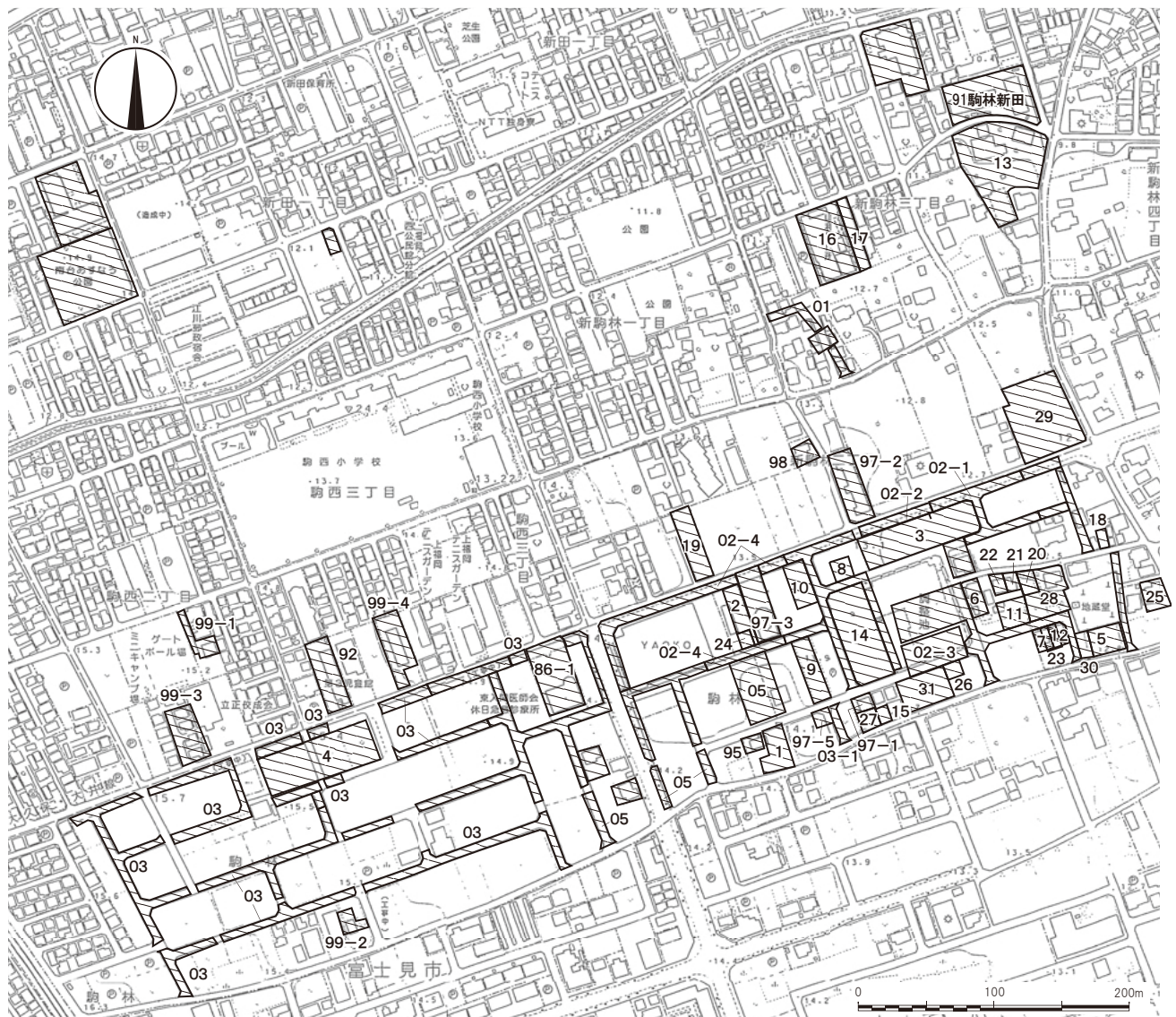
周辺の遺跡は、北側に葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓、東側に地下式坑を検出した駒林新田前遺跡、500m 下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稲荷久保北遺跡がある。2002 年以降の試掘調査の結果、幅 5 m、深さ 2 m の大溝や茶毘跡、縄文時代の集石土坑等を検出する。

II 駒林遺跡第 16・17 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2011 年 4 月 8 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。現状は更地となっていたが、以前は一続きの土地で、工場が建っていた。

また、再開発に当たり、東西で土地所有者が異なる



第 53 図 駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)



第54図 駒林遺跡遺構分布図 (1/2,000)

ため、前協議書は第 16 地点と第 17 地点として提出された。申請者と協議の結果、隣接地であり再開発も一連の分譲住宅であり、一括して試掘調査を行った。

第 16 地点の試掘調査は同年 5 月 2 日～25 日、第 17 地点が 16 日～19 日に行った。幅約 1.5 m のトレンチを第 16 地点に 7 本、第 17 地点に 2 本設定した。重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、調査区北側の道路に沿って、両地点に延びる堀跡が確認された。また第 16 地点中央部で近世の遺物を出土する遺構が確認された。

試掘調査の結果、両申請者と協議を行った。遺跡の大部分は、30 cm 以上の保護層が確保されるため工事立会いの措置とした。しかし、第 16 地点の範囲内に新たに設置される道路部分と開発区域の一部については、開発による遺跡への影響が避けられないため、原因者負担による本調査を実施した。

第 16 地点の本調査は、同年 5 月 25 日～6 月 1 日まで行い、縄文時代土坑 1 基、中世以降の堀跡 1 本、溝 1 本、近世以降の井戸 2 基、時期不明土坑 1 基、ピット 4 基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

【堀跡・溝】堀跡は調査区北側で、東西の道路に並行する。断面は逆台形で、底部の一部には土坑状の掘り込みがみられる。上幅 427～450 cm、下幅 167～191 cm、深さ 155.7 cm である。溝は調査区北側で堀跡と道路に並行するように位置する。断面は「U」字状で、上幅 48～67 cm、下幅 22～40 cm、深さ 30 cm である。

【井戸・土坑・ピット】各遺構の詳細については、第 24 表のとおりである。

【遺物】遺物は、第 16 地点の 2 基の井戸と、土坑 1 から出土する。第 17 地点と堀跡からは出土しない。遺物の詳細は第 25 表のとおりである。

Ⅲ 駒林遺跡第 18 地点

(1) 調査の概要

調査は宅地造成後個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2011 年 4 月 26 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」と「発掘届」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、遺構の存在を確認するための試掘調査を実施した。試掘調査

は同年 4 月 28 日～5 月 2 日まで行った。幅 1.5 m のトレンチ 4 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、縄文時代の土坑 1 基、中近世以降とみられる土坑、ピット等を確認した。地表面から遺構確認面までの深さは 20～30 cm であった。

個人住宅建設による遺跡への影響が避けられないため、原因者と再度協議の結果、本調査を実施した。

本調査は 8 月 25 日～31 日まで行った。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

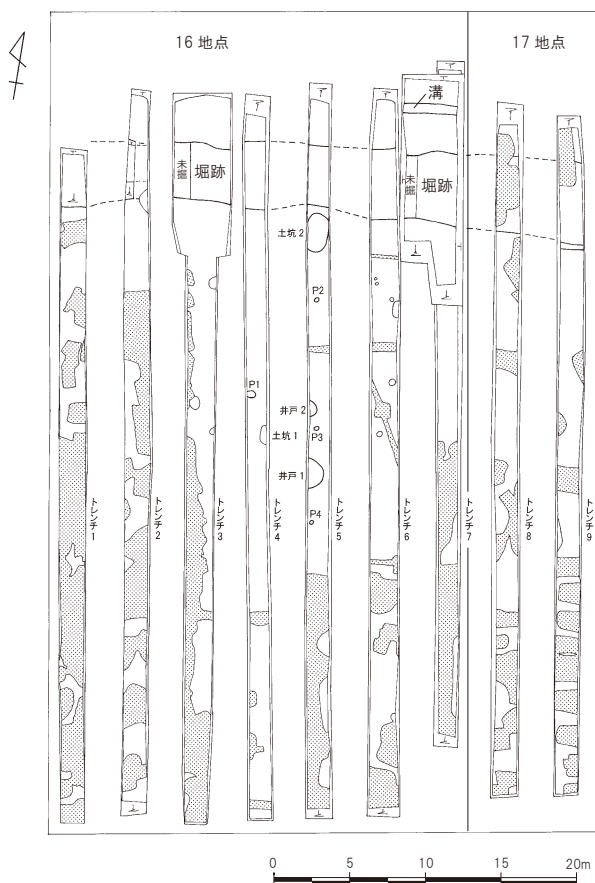
土坑 1 は半円形で、確認面径 115 cm、深さ 82 cm である。土坑 2 は幅広い溝状を呈し、長軸 (4.5) m × 短軸 3.5 m、深さ 113.3 cm である。土坑 1・2 は近世以降。溝の断面はほぼ垂直に立ち上がり、上幅 78～85 cm、下幅 58～70 cm、深さ 13.8 cm である。近世以降。

遺物は土坑 2 から出土したものを掲載した。詳細は第 26 表のとおりである。

Ⅳ 駒林遺跡第 19 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2011 年 11 月 11 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」



第 55 図 駒林遺跡第 16・17 地点遺構配置図 (1/500)

がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲内に位置するため、遺構の存在を確認する試掘調査を実施した。

試掘調査は 2011 年 11 月 28 日～12 月 5 日に、幅約 1.5 m のトレンチ 3 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、地表面から深さ 30～50 cm で、中近世以降の溝跡を確認した。

試掘調査をもとに原因者と協議の結果、工事による遺跡への影響が避けられないことから、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は、12 月 12 日に溝を検出し、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、本調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

堀跡は調査区中央部に位置し、東西方向に延びる。断面は逆台形で、上幅 107～135 cm、下幅 21～27 cm、深さ 60.4 cm である。中近世以降。

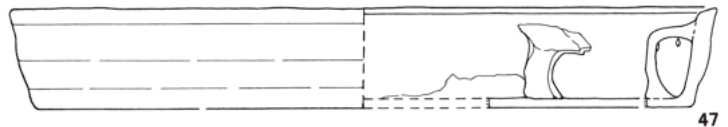
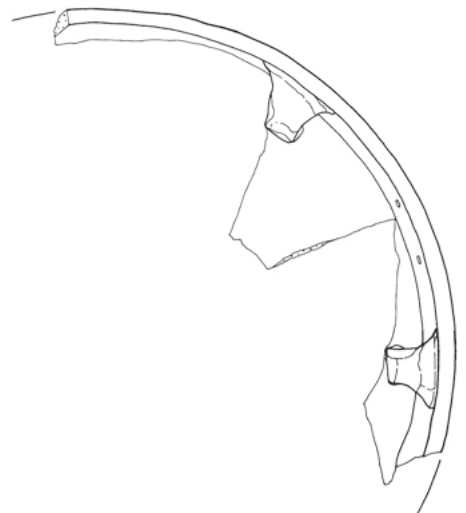
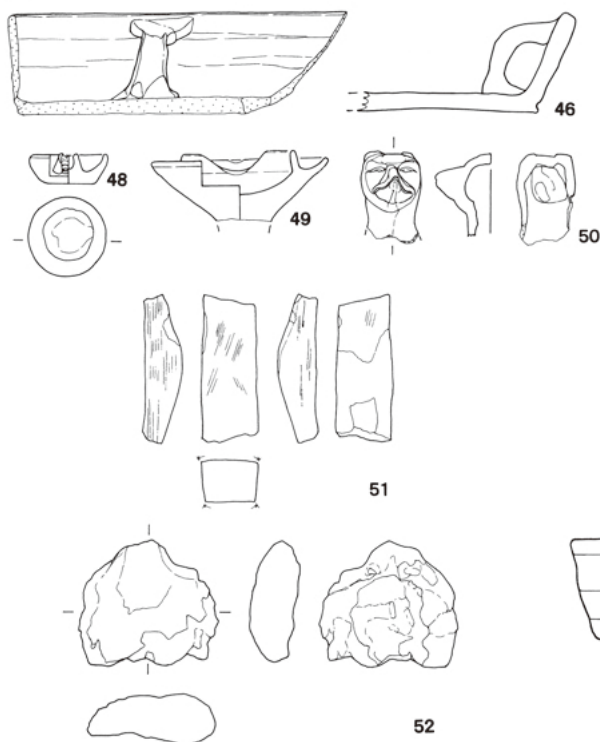
遺物は遺構外から縄文時代中期～後期の深鉢形土器の、無文の底部が出土している。(第 61 図 1)

V 駒林遺跡第 20・21・22 地点

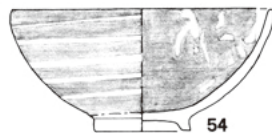
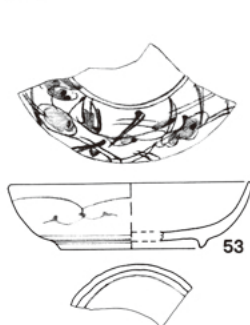
(1) 調査の概要

駒林遺跡第 20 地点の調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2012 年 2 月 10 日付け、同第 21 地点は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2012 年 2 月 20 日付け、同第 22 地点は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2012 年 2 月 28 日付けで「埋

井戸 1



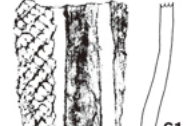
井戸 2



土坑 1



遺構外



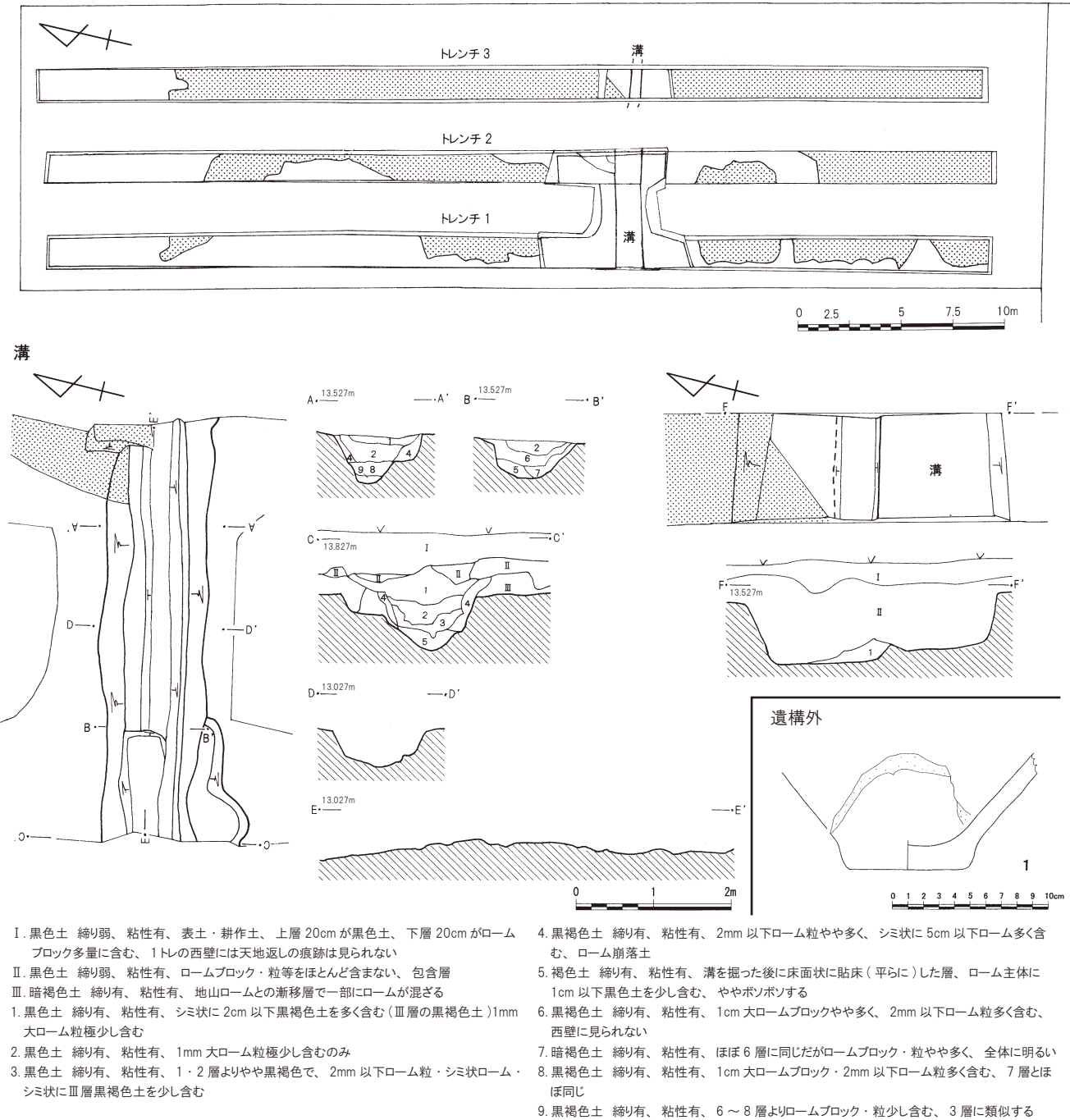
第 59 図 駒林遺跡第 16 地点出土遺物② (1/4)

作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

遺物は、第 20 地点から縄文土器片 1 点を採取した。縄文土器の胴部片で、半截竹管の並行沈線と連続刺突文を施し、胎土に金雲母を含む阿玉台式である。

第 26 表 駒林遺跡第 18 地点出土遺物観察表 寸法単位 :cm () 付きは推定値

掲載 No	出土 遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1	土坑2	陶器/皿/丸皿	(12.0)	-	-	轆轤成形/灰釉	瀬戸・美濃	1600～1760年代
2		陶器/皿	(10.5)	-	-	轆轤成形/灰釉	瀬戸・美濃	-
3		磁器/碗/厚手碗	-	-	-	轆轤成形/コンニャク印判染付/菊花文	肥前	1750～1770年代
4		磁器/皿	(10.6)	-	-	轆轤成形/染付	肥前	18 c
5		瓦(砥石に転用)	-	-	-	割れ口に研磨痕/攪乱から出土	-	-
6		金属製品(銅)/煙管吸口	(7.5)	1.1	0.9	吸口径5mm/重量:5.36g	-	-



第 61 図 駒林遺跡第 19 地点遺構配置図 (1/300)、溝 (1/80)、出土遺物 (1/4)



駒林遺跡第 19 地点近景



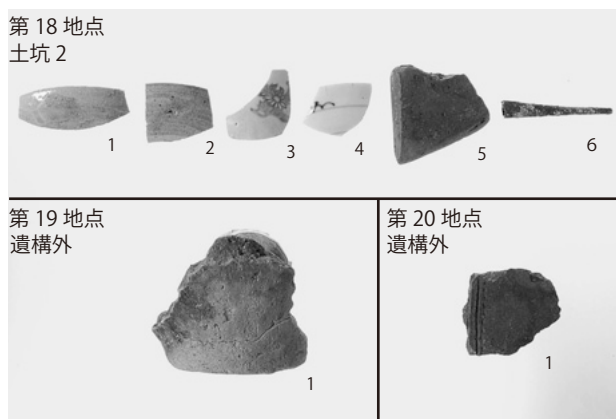
駒林遺跡第 19 地点調査風景



駒林遺跡第 19 地点溝



駒林遺跡第 19 地点溝



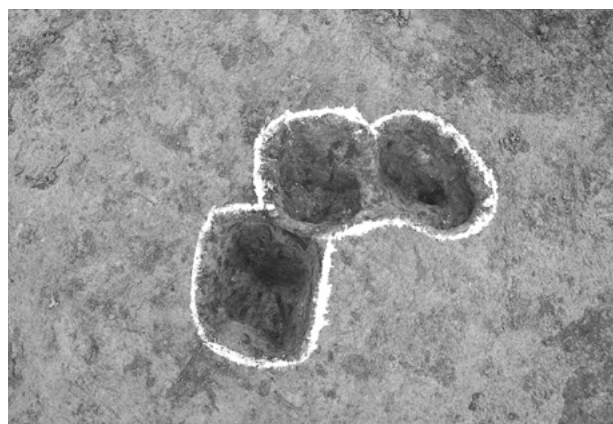
駒林遺跡第 18 ～ 20 地点出土遺物



駒林遺跡第 20 ～ 22 地点調査風景



駒林遺跡第 20 ～ 22 地点ピット 1 ～ 3



駒林遺跡第 20 ～ 22 地点ピット 4 ～ 6